



この度はアンケートへのご協力ありがとうございました。

ささやかながら、お礼の品としまして やむおち台本とキャラクター設定をお送りします。

どうぞ、暇つぶしにでも。

【挿入話 約束】

明かりがつくと、舞台中央に大黒屋の姿。

トウカ 「兄さんっ。」

上手階段からトウカが慌てたように走って登場。
大黒屋、驚いた表情で。

大黒屋 「トウカ。」

トウカ 「(慌てて) 兄さんっ、国生みをするって 本当っ」

大黒屋 「ええ。」

トウカ 「なんでっ。」

大黒屋 「人は我ら神が望んだ方向には進まなかった。

争い、憎み、中つ国は穢れるばかり。

このままではやがて全て滅びます。

そう成る前に、我らの手でもう一度初めからやり直そうとー」

トウカ 「そんなの、ダメ。」

大黒屋 そんな事をしたら、中つ国に暮らす者すべてが死んでしまうわっ。」

トウカ 「そのための国生みです。」

大黒屋 「いやっ、ジンは中つ国でしか生きていけないのに…。」

トウカ 「…ああ、貴方はたしか中つ国の…人間と。」

大黒屋 「(話を遮って) 兄さん、国生みを止めて。」

トウカ 「そういう訳にもいきません。」

もう決まったことです。

トウカ あと少しすれば、第一波が地上を襲うでしょう。」

大黒屋 「だったら… ひとつ、賭をしましょう。」

大黒屋、トウカへ振り向く。

大黒屋 「かけを？」

トウカ 「そう。人の世をかけた賭を。」

大黒屋 「兄さんがかったら国生みを、私が勝てば人に猶予を。」

トウカ 「…いいでしょう。」

大黒屋 それで、賭けはどのような？」

トウカ 「希望。」

大黒屋 「希望？」

トウカ 「絶望と希望の数を競いましょう。」

大黒屋 中つ国は作り直さなくてはいけないほど絶望に溢れているのか。

それともまだ立ち直る為の希望は残されているのか。」

大黒屋 「絶望と、希望 ですか。」

トウカ 「…賭をしましょう。」

にこやかに笑うトウカ、大黒屋ゆっくりと頷く。

暗転

【巫女とお紺と狐太郎】

紅葉 「私は、人の、世を…。」

お紺 「人の世、人の世ってさ。」

紅葉 アンタ達は、どうしたいのさ？」

お紺 「むろん、人間が完全に納める国を…。」

紅葉 「じゃあ津波をなくす為に海をなくすの？」

お紺 雪崩をなくす為に山を消すの？」

紅葉 そんな世界に、アンタ達、本当に住みたいの？」

狐太郎 「それは…。」

紅葉 「それぞれ違う生き方、性質の我らです。」

手を携えて共に生きようとはいいません。

ただ、我らは我らで生きているのです。

人と同じように。」

紅葉 「道具屋…。」

お紺 「めんどくせえな。」

紅葉 そっすう思想談義みてえなのは帰ってからにしてくれ。」

【幹事長じゃなくなっちゃったから…】

立花 「おや困ったね、たえ神様であるって犯罪はいけないよ。」

お紺 「きゃー、犯罪者っ？」

お紺 「じゃ？」

お紺 「…じん？」

狐太郎 「はんざいじん。」

立花 「なんだか犯罪の神様みたいだね。」

お紺 「なあ、はんざいじんと はんだいじん って

なんだか似てないか？」

狐太郎 「何ですか はんだいじん って。」

お紺 「半分総理大臣の事。」

お紺 「残り半分は？」

お紺 「幹事長？」

狐太郎 「…おざわー」

お紺 「危険な話をするなあああ…」

お紺 じゃなくアタシを取り残して話を進めるなっっ。」

お紺 「おお、はんざいじん。」

お紺 変な名前と呼ぶなっ。」

お紺 つか、殺してないから。」

狐太郎 「またまた。」